

研究のまとめ

学校教育目標

自ら学び 豊かに関わり合い たくましく生きる児童の育成

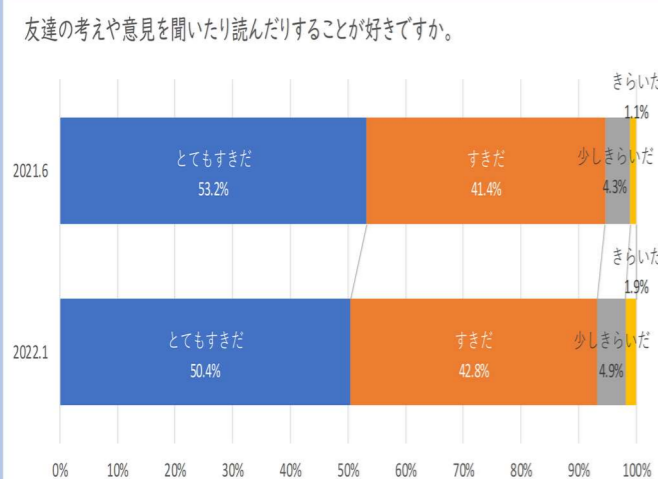
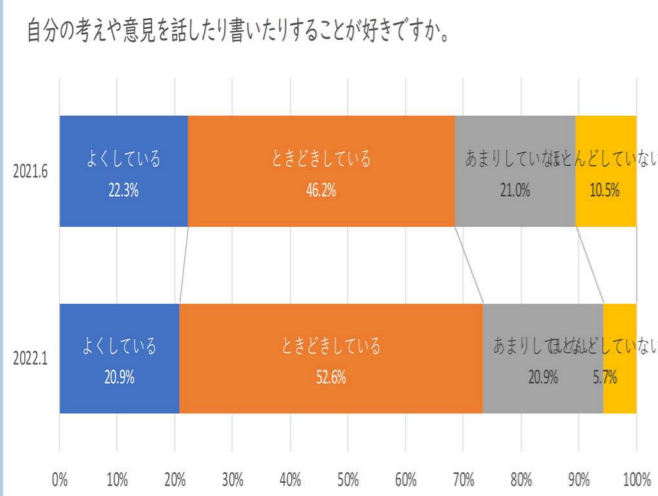
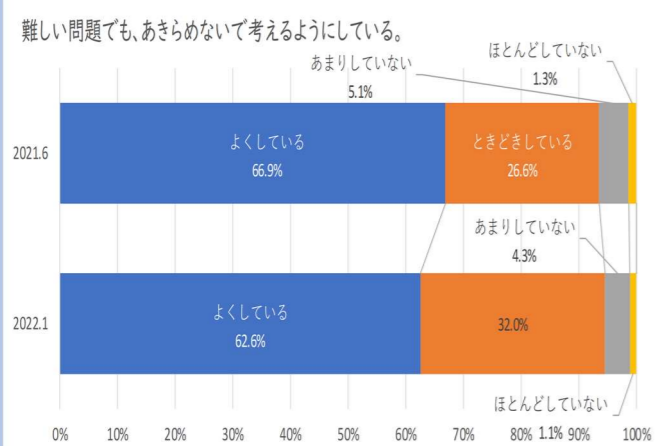
研究主題

「主体的に学び、自分の考えを
生き生きと表現する児童の育成」



佐倉市立志津小学校

アンケート結果



成果

《仮説1》

- ・問題場面に身近な素材を取り入れることで、学習意欲が高まり、問題解決に粘り強く取り組もうとする姿が見られた。
- ・問題を映像で提示することで、数量の関係を捉えたり、何を求めるのか理解したりすることができた。

《仮説2》

- ・タブレットや大型テレビを活用することで、友達の考え方を共有したり比較したりすることができ、話し合い活動が充実した。
- ・ノート指導により、自分の考えを書くことに抵抗がなくなってきた。
- ・ペア学習や少人数のグループ学習を取り入れることで、自分の考えを発表する機会が確保された。

課題

《仮説1》

- ・今年度は、教員もタブレットの使い方にまだ不慣れだった。ミライシード等の機能をさらに学び、問題提示だけでなく授業のどこで取り入れると有効なのかを探っていききたい。

《仮説2》

- ・「表現力」とは何か、全体で確認し共通理解していく必要がある。
- ・発表の型をある程度示すことで、説明の仕方のヒントを与えられるようにする。
- ・ICTだけではなく、従来通りの学習（ノートやワークシート等）が適している場面を見極めていく。
- ・自分の考えを表現するために、基礎となる知識理解（確かな計算力等）も身に付けられるよう手立てを考えていきたい。
- ・児童の交流は、状況を考慮しながらさらに深めていく。

仮説の検証

仮説1 問題文に提示された内容を的確に読み取るための手立てを工夫すれば、主体的に問題解決に取り組むことができるであろう。

- 手立て《授業での取組》
- ①具体物の提示…問題文に出てくる物を実際に用意することで、イメージをしやすくする。
 - ②身近な素材を活用…自分たちの生活に関わることや慣れ親しんだ物を問題の素材として取り入れる。
 - ③板書の工夫…問題文の中でキーワードになる部分に下線を引く。ヒントとなる既習事項を掲示する。
 - ④ICTの活用…タブレットやパソコンを使い、写真や動画を出す。

第1学年 「どんなけいさんになるのかな？」

- 校外学習で行った「草笛の丘」での体験をもとに、素材作りをした。→身近な素材だったため、意欲的に取り組めた。
- ICT機器を活用して、動く挿絵を提示し、加法や減法の場面を明確にした。→問題の内容を的確に捉え、演算決定の助けになった。
- 既習内容である加法や減法となる言葉を掲示した。→既習を手掛かりにし、立式や解答を導き出すことができた。
- 授業の始まりにフラッシュカードで計算練習をした。→計算の仕方を振り返るとともに、集中力を高めることができた。



第2学年 「かけ算（2）九九をつくらう」

- 担任が食べ物を題材とした動画を作成した。→身近な素材であったため、児童の素材に対する理解が深まり、意欲的に問題解決に取り組むことができた。
- ヒントカードや友達との話し合いを取り入れた。→苦手な児童も自分の考えをもち、オクリンクでクラス全体へ発信することができた。
- ICT機器を活用し、児童が良いと思った考えタブレットで写真を撮り、オクリンクで全体共有を行った。→友達から選ぶこともできたため、自分の考えをオクリンクへ送ることができた。また、全体で共有した際にも、友達との考えの違いや同じに気が付くことができた。



仮説2 筋道を立てて考えを表すための手立てを工夫すれば、児童の表現力が育つであろう。

- 手立て《授業での取組》
- ①学習形態の工夫…ペアやグループで多様な考えを出したり、意見交換をしたりする場面を設定する。
 - ②タブレットの活用…自分の考えをタブレット内に絵や図、式や表などを書き込み、思考の過程や結果を説明する。
 - ③思考語彙を意識した発表の話型の活用（基本的な発表方法の習慣化）
 - ④具体物や半具体物の活用

第4学年 「四角けいのとくちょうをしらべよう」

- 図形を作図する際の一つの着眼点として外側に角が存在することに気付かせるため、Scratch（スクラッチ）を活用した。図形概念の理解の様相モデルを自身で捉え直したものを加え、その各レベルが上がっているかを分析することで、「言葉」と「イメージ」の隔たりを埋め、図形の定義や性質を見出すことができたか、根拠を明らかにして考えたかどうかを分析し検証した。
- 前日までの子供たちの振り返りとプレテストを基にした様相レベルと授業後の様相レベルを比較すると、向上がみられる児童が多かった。このことから、第4学年の児童にとっては未習の内容である外側の角の存在に気づき図形に対する見方を広げることができたと考えられる。
- 導入時に、Scratch（スクラッチ）の特性を生かし、図形概念に揺さぶりを与えた。
- 作成したものと提示した平行四辺形が違うことに気づき、課題設定へ発展させることができた。



第6学年 「およその面積と体積」

- 関東の都県でどのような形で考えられるか例示した。
- 色々な図形と見立てたり、分けて考えたりする方法などを示すことで、見通しをもつことができた。
- 千葉県を大きく囲んだ例を示しながら発表の見本を見せた。
- 囲むときの注意点を全体で確認することができ、答えのおおよその見当をもつことができた。また、話型をもとに話すことで、スムーズに発表することができた。
- 千葉県の地図と説明が書けるワークシートを使用し、地図を班員に見せながら説明した。
- 地図に書き込んだ図形や計算式をもとに話すことで説明の苦手な子もスムーズに説明することができた。求められなかった子もできたところまでを説明した。
- オクリンクで写真を撮り発表者のワークシートを全体で共有した。
- やや見えにくかったため、友達の手がかりが分かりやすかった。